

公立大学法人神奈川県立保健福祉大学第二期中期計画（素案）への評価委員意見及び回答

意見番号	項目	素案本文	評価委員会意見	回答内容
①	第2 教育研究等の質の向上に関する目標 1 教育に関する目標 (1) 人材の育成 ア 学部教育	【1】 専門力と総合力を備えた保健・医療・福祉人材の育成（学部） 学部教育では、保健・医療・福祉の分野における県立の四年制大学としての意義を踏まえ、多領域が連携する専門職教育により、ヒューマンサービスを実践できる人材及び地域において活躍できる人材を育成することで、質の高い専門性と総合力を備えたリーダーやコーディネーターを地域社会に送り出す。	評価指標で、国家試験合格率のうち社会福祉士が75%。 他の国家試験合格率は全て100%であるのに対し、何故、社会福祉士は75%なのか。 過去の実績としての目標達成度合いによっても、評価指標は変わってくるが、実績を踏まえて、少し高く設定するののも一つの考えだと思う。	評価指標100%を設定した国家試験の全国平均合格率が概ね8割以上であるのに対して、社会福祉士は、全国平均合格率が3～4割程度であること、社会福祉士の令和4年度実績合格率が72%であることを踏まえ、第一期中期計画と同様に今回の評価指標を設定。取組みとしては、目標値以上を目指し、学科において、国家試験対策等講座を実施していく。
		評価指標 1- (1) 学生満足度調査でカリキュラムが良好との評価 80% 1- (2) 第三者教育評価の受審及び認定 1- (3) 就職希望者就職率(学部) 100% 1- (4) 国家試験合格率 看護師 100%、保健師 100%、管理栄養士100%、社会福祉士 75%、精神保健福祉士 100%、理学療法士 100%、作業療法士 100%	評価指標で、社会福祉士国家試験合格率の数値目標については、実績として合格率72.7%が達成されたことから考えると、今後、合格率100%を達成するポテンシャルを、この大学は持っていると考えられるため、評価指標を100%に設定してもいいと思う。100%を達成するために具体的に大学として何をしたいのか、そのプロセスを聞きたい。評価指標に異議を唱えるわけではないが、もったいない。	—
②	ウ 現任者教育	【4】 専門人材のさらなる能力高度化とリスクリングを支えるフィールドの構築（横浜キャンパス） 実践教育センターでは、社会環境の変化により専門人材のリスクリングの重要性が高まる中で、大学等と連携しながら、ニーズに対応したカリキュラムの提供や、専門分野を跨いだ教育の充実を図る。 また、大学院と連携した科目履修生制度の検討やオンラインの活用など学びやすさを重視した取組みを進めるとともに、学びの成果を評価する仕組みづくりを検討する。 さらに、人生100年時代が進展する中で、保健・医療・福祉人材の実践力をさらに強化するゲートウェイとしての役割を総合的に果たすため、大学全体の総合的取組みとして横浜キャンパスの再整備を検討する。	定性的な評価指標について、何を評価するのか、どう成果が出ているのかの判断が、分かりづらい面がある。 評価指標「時代の要請に適合した課程や研修の実施」について、実施した研修自体が、時代の要請に適合しているか否かを、どう評価するのが課題であり、実施した研修が時代の要請に適合しているのか把握できないと評価のしようがない。 何をもち、成果とするのかという点を確認いただきたい。あわせて、成果が出たのか、出していないのかを評価する指標を工夫していただきたい。	中期目標案に定められた項目ごとに評価指標を設定するという法の要請に基づいて、先行する国立大学での事例を参考にしながら検討した。そのうえで、評価指標は数値で定量的に把握できるものばかりではなく、段階的に事業の実現を図っていくような内容だと、なかなか数値では測れないものもあり、一部、定性的な指標を設定した。 評価にあたっては、大学で評価指標に関する実績について一定の整理を行い、大学としての評価を示したうえで、評価委員会の評価を受けて、それが適切であるか否か判定していただけないかと考えている。
③	(3) 教育の実施体制の整備	【6】 ひとの力を高める教育基盤づくり 教育効果が最大限に発揮できるよう適切な教員の配置を行うとともに、より優れた教員の確保に努める。現場の生の情報を学生に提供するため、第一線で活躍している実践者等を活用する。 また、専門職の養成という大学の特色や教員ニーズ、社会環境の変化を踏まえたFD講習会を定期的実施し、教育内容や教育方法の向上及び改善に活用することで教育の質保証につなげるとともに、大学のミッションと基本理念の周知を図り、その浸透に努める。 さらに、教学マネジメントに関わるデータの収集・分析を通じた課題の把握と対応など、教学IRの推進を図るとともに、学生の快適な学びの場として大学施設等の計画的な整備と適切な維持管理を行う。	「ひとの力を高める教育基盤づくり」ということだが、人の力を高めるというのは、具体的に何を指しているのか。例えば、「優れた教員の確保に努める」といった記載があるが、人の力を高めるために、教育者のレベルを上げるというのは、当然、そうであるが、直接的にはあまり結びつかない。	「ひとの力を高める教育基盤づくり」については、大学で教育基盤をつくるために、何を指しているのかということであり、大学ではヒューマンサービスの実現を目指しているため、「ヒューマンサービスを「ひとの力」として、ひとの力を高めるという表現をさせていただいている。
④	その他	—	大学として、積極的な挑戦をしてもらえと思うが、欲張れば欲張るほど、教職員への負荷が重くなるため、大学としてのマネジメントも測定していかなければならないと感じている。 民間企業でも、従業員のエンゲージメント等を行っているが、大学でも教職員の納得感、満足度、働きがい、働きやすさについても着目していく必要があると感じている。	大学も、（人、時間、予算等に）限りがある組織なので、一定のスクラップアンドビルドをしていく必要がある。 大学として、新しい事業を実施していくかについての意思決定は、個別の項目ごとに、学内委員会や学科等で十分に議論を行い、整理をしていく。 また、中期計画素案に基づいて大学運営をしていく中で、場合によっては人件費の増等も考えられるので、必要に応じて、県とも調整のうえ、整理をしていきたい。
⑤	—	—	—	—

意見番号	項目	素案本文	評価委員会意見	回答内容
⑥	その他	—	<p>令和4年度の大学認証評価について、改善点については、大学として対応を検討されていると思っているが、その対応が今回の中期計画素案にどのように反映されているのか、また、中期計画素案に与える影響はあるのか、コスト面からご説明いただきたい。</p>	<p>「改善を要する点」については、速やかにアドミッション・ポリシーの見直しを行い、対応を行った。</p> <p>「今後の進展が望まれる点」については、学部学生の入学者選抜のプロセスにおける教授会の役割をより明確すること、シラバスにおける成績評価の記載及び履修規程の整備等について組織的な見直しを図ることについては、対応を行った。</p> <p>大学院課程における収容定員の超過については、定員超過となっているヘルスイノベーション研究科が、現在AC（アフターケア）期間中であり、今後の入試状況も踏まえて定員設定のあり方を検討していく。</p> <p>大学院課程のカリキュラム・ポリシーとディプロマ・ポリシーの一貫性確保についても、ヘルスイノベーション研究科のAC期間が終了次第、対応していく。</p> <p>「学習成果を評価する方法に関する方針」の明示については、中期計画に教学マネジメントの実施を位置付けており、その中で対応していく。</p> <p>教学マネジメントの実施については、既定の方針であるため、中期計画に与える影響はない。なお、教学マネジメントの実施に向けては、IRの導入や教職員の人的費などの予算措置が必要なため、具体的な金額については今後県と大学で調整していく。</p>
⑦	その他	—	<p>第2次将来構想報告書のマイルストーンとして、展望する2040年に対して何%程度の進捗を想定しているのか、それを測定できる評価指標となっているのか、点検頂きたい。</p>	<p>中期計画に位置づけた評価指標については、令和5年6月に改正・施行された地方独立行政法人法第78条第5項により、同法第26条第2項第1号及び第2号に掲げる措置の実施状況に関して定めているものであり、大学の活動のうち法で定められた項目に限って設定しているもの。評価指標で将来構想の進捗を数量化できない部分もありますが、目指す姿に近づけるよう大学として取り組んでいく。</p>
⑧	その他	—	<p>50数個の指標でA評価であれば、県民に、学生一人当たり2百万円程度、職員一人当たり12百万円程度の負担が妥当であると説明できる必要がある。例えばFD研修を72回実施すれば、県民の納得が得られるか疑問である。</p>	<p>中期計画に掲げた評価指標については、法に定められた項目に沿って設定を行っている。そのうえで、中期目標の検討にあたっての評価委員会からのご指摘を踏まえ、計画の前文に県立大学としての役割を果たすことを明記したほか、保健・医療・福祉の分野における優秀な専門人材を送り出すことや、県や市町村の課題解決に向けた研究の推進などを計画に盛り込み、県民に貢献する役割を明確にした。</p> <p>大学としては、個々の評価指標の達成を図ることはもちろん、大学としての教育、研究、社会貢献の活動を着実に実施し、その成果を示すことにより、県民からの負託に応えていく。</p>
⑨	その他	—	<p>二期目の中期計画なので、計画を無駄なものとして、組織としての成長に活かせるかどうかの分かれ目である。中期目標から、大学として考えるターゲット（成果）を明確化し、その成果を測定する評価指標を示すことにより、改めて総点検頂きたい。</p>	<p>第4回評価委員会に提出した中期計画の素案では、中期目標を受けて、項目別に大学として考える方向性が明確になるような表題を掲げた上で、数値化に適したものはできる限り数値化するなど適切な評価指標を設定するよう努めた。なお、評価指標については、委員会において意見をいただいたので、改めて点検した。</p>